

# ラオスの こども通信

76号  
2020年2月発行

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- 5名のALC奨学生が決まりました！▶p.1
- はじめる・つながる・つくりだす ▶p.2
- 「ラオスのこども」の仲間たち ▶p.4
- メコンのほとり「智」▶p.4



\*写真の説明はp.4をご覧ください。

## 5人のALC奨学生が決まりました！

ALC(Action with Lao Children)は、「ラオスのこども」のラオスでの名称です。

### めざましい発展の影で...

中国主導の鉄道建設や、大型ショッピングモールや高級ホテルが立ち並び、近年急速な開発・発展を遂げているラオス。

その一方で、貧富や都市・地方の格差は拡がり、貧困層の教育環境は改善されていません。特に中等学校(中学・高校)については、初等学校(小学校)に比べ支援が行き届かず、せっかく中学に入学しても、経済的な理由などで途中から学校に行けなくなる子どもが後を絶ちません。7年前から当会がタイの企業から受託している高校への奨学金事業でも沢山の子どもたちが就学困難な状況にあるのを目の当たりにしてきました。

### ラオスのこどもが奨学金制度を新設

そんななか「ラオスのこども」は子どもたちが学業を続けていく助けになるよう、当会の「マンスリーサポーター」のみなさんからの寄付を活用して、このたび「ALC奨学金制度」を設けました。

今回の奨学金対象は、現在図書館開設事業(外務省日本NGO連携無償資金協力「ビエンチャン県における中学校の図書館整



ALC奨学金選考会議。校長・副校長、父母会長と一緒に協議しました。

備を通した読書推進活動」事業)をおこなっている、ボンサイ中等学校の4~7年生(日本の中学校3年~高校3年生)とすることになりました。当会ラオス事務所スタッフは、これまで奨学金の受託業務をしてきました。とはいえ、募集要項を自分たちで考えるのは初めての経験です。

支給金額はいくらにするのか?どのような基準・プロセスで選考するのか?応募書類の内容はどうするか?などなど、校長先生に就学経費の聴き取り調査をし、企画会議を持ち、話し合いを重ねながら、半年近くかけて内容を詰めていきました。

### 面談で分かった子どもたちの現状

2019年11月下旬にボンサイ中等学校の先生たちに奨学金説明会を行い、募集を開始しました。応募者は64人。ラオス事務所スタッフが応募書類を読み込み、生徒たちの就学に対する熱意や、将来の夢や希望を書いた文章、クラス担任による家庭や学校での情報をもとに採点し、10人まで絞り込みました。

その後12月19日にボンサイ中等学校で選考会議を開催し、校長、副校長、父母会長の立会いのもと、10人の候補者の書類選考と面談を行いました。

親を亡くしていたり、離れて暮らしていたりと、困難な家庭環境のなかで、兄弟や親戚と助け合って生活している子どもたちの様子がみえてきました。彼らのほとんどが、家計を助けるために働いています。鉄道建設現場で夜警をする子、ガソリンスタンドで物売りをする子、ゴミ拾いをする子、機織りをする子...授業が終わってからも休みの日も働くことで、家族の暮らしを支え学校にもなんとか行けているギリギリの状態なのが伝わりました。

それでも、いえそんな状況だからこそ、彼らにとり「学校にいるとき」というのはとっても貴重な時間なのだろうと思います。この奨学金で学校に通いつづけることにより、自分の将来を思い描きその夢をつかみとることが出来るように、ALC奨学金が「道しるべ」の役割を担います。



生徒に面談。家庭の状況や自身の想いを聴き取りました。

## 奨学金の支給を開始しました

協議の結果、ビー君(4年)、ブンフォーム君(5年)、ソンプイアンさん(6年)、スリントン君(7年)、ミトゥナーさん(7年)の5人が、奨学生に選ばれました。

みなさんに受給決定のインタビューをしたところ、「とっても嬉しいです!これで学校の授業料を工面することができます」「奨学金で学用品や通学鞆を買いたいです」「お医者さんになりたいので、一生懸命勉強します」「(言葉が異なる民族なので)苦手なラオス語を克服して、将来のために英語の勉強も続けたいです」「学校では、図書館の仕事などのお手伝いをしたいです」と、とっても真面目で頑張り屋さんな答えが返ってきました。

2020年1月、奨学金を支給し、制度が開始となりました。

## 図書館支援との相乗効果を期待

ALC奨学金は、「ラオスのこども」が長年行ってきた「読書推進活動」との相乗効果をねらいます。ボンサイ中等学校の5人の奨学生たちも、学校に新しくできた図書館に通い、好きな本を読んだり勉強するのを楽しみにしています。

来年度は、同じくヴィエンチャン県の2つの中等学校でも、ALC奨学金をスタートさせる予定です。

ラオスの子どもたちにとって中学・高校は将来の進路を考える大切な時期です。奨学金を手にした子どもたちが、学校に通い続けるなかで、図書館を訪れ、本と出会い、広い世界を知り、考える力を養い、自分自身の力で将来を切り開いていくことが出来たら・・・と願っています。(渡邊淳子/ラオス事務所駐在)

### 子どもたちが夢に近づけるように… あなたも マンスリーサポーター になりませんか?

ALC奨学金とマンスリーサポーター制度にご関心をお持ちの方は、当会ホームページ (<http://www.deknoylao.net/>) をご覧ください。

詳しくお知りになりたい方は、下記までお問い合わせください。子どもたちの成長を支えるために、ご協力をよろしく願っています。(担当: 伊藤)

Email: [alctk@deknoylao.net](mailto:alctk@deknoylao.net)  
TEL/FAX: 03-3755-1603



## [活動ミーティング報告]

ラオスの児童館について、たっぷり話し合っただ!



1月18日(土)、ラオスの「子ども文化センターについて考えよう」というイベントを、東京・広尾の聖心女子大学グローバル共生研究所で行いました。これは2020年最初の活動ミーティングで、27人が参加しました。

ラオスの学校教育では行われていなかった絵画・音楽・舞踊・演劇などをはじめ、子どもたちが表現・創作活動ができる施設として、1994年にポリカムサイとヴィエンチャンに「子ども文化センター(CCC)」が当会などの支援で設立されました。その後、各地での開設・運営を支援してきました(CEC、CDCという名称の施設もあるため、当会は「子どもセンター」と呼んでいます)。

ラオス社会にCCCは定着し、その後政府主導で全国39か所に広がりました。そこで、CCCで活動をしてきた元青年海外協力隊5人をパネラーとして迎え、現状把握と課題の共有、今後のCCCの可能性について、参加者とともに意見交換会を行いました。

パネルディスカッションでは、各CCCで理念や目的が現地職員に共有されていないことや職員のポテンシャルは高いが意識の面での改革が必要など、人材育成や理念の浸透の面での課題が共通としていることがわかりました。

一方、CCCの強みは、子どもが放課後に集まる場があること、子どもが積極的に年少者の世話をする姿があるなど、主体性を養ったり、学校以外での成長を促す場として可能性が広がるという意見がありました。これらを踏まえ、参加者同士で問題を深掘りし、課題へのアプローチや強みの活かし方などの意見交換をしました。CCCと学校が協力して研修を行うという提案や、職員向けの教材の開発、意識改革の必要性などの意見から、人材強化の面で課題が大きいということが明らかになりました。

今回の活動ミーティングでは、CCCの目的や存在意義を共有できたことだけではなく、現状の課題や新たなアプローチ方法など、当会にとって学びがあり、CCCはラオスの子どもたちにとってプラスとなる存在であることを再認識しました。子どもたちにとって良い教育環境を作ること、現地の職員に対して一方的ではない理念の浸透の仕方など、考えるべきトピックは尽きません。今後も、みなさんと一緒に何かできることはないか、考え、意見を共有できる場を作っていきます。

## 図書館が完成！ その次に向けて



完成した図書館

ヴィエンチャン県内の3つの中等学校に図書館を開設するプロジェクトが2019年3月から進んでいます。その第一弾、ボンサイ中等学校(生徒数988人)では、9月に図書館ができ上がり、10月には運営を担当する先生と生徒に向けて研修を2回にわたって行いました。11月1日の引き渡し式には教育スポーツ省、国立図書館、ボンサイ中学校村教育開発委員会などが列席し、在ラオス日本大使館公使にスピーチをいただきました。

この図書館は120㎡で約3,000冊の図書を所蔵します。ラオスの中等学校は、図書館が設置されているところが少なく、3,000冊規模はなかなかありません。開設後すぐ副校長から嬉しい便りが届きました。「毎日たくさんの生徒たちが休み時間に図書館に来て、知識を吸収しています」。

オープン後2か月間の活動を調べてみると、学校のある月曜日から金曜日まで毎日開館し、1日平均190人が利用、貸出は1日あたり85冊です。生徒たちからは、「今まで放課後は外で遊んでいたけれど、図書館で本を読むようになった」「ベンチで本を読むのが好き」などの声。先生たちは、「自分が教える授業の準備で図書館を使っています」と何人もが話しています。これまでに開設した図書館の中でもとくに活発に利用されていることがわかります。



借りる本を手に並ぶ生徒たち

大切なのは、持続すること。そのため、村教育開発委員会など地域の人たちが運営に関わる仕組みを作っています。

2020年3月からは、同規模の図書館をヴィエンチャン県で2か所建設する計画です。同時に、ボンサイ中等学校の活動を安定させるためにフォローアップ研修を行う計画です。

(外務省日本NGO連携無償資金協力事業)

## 「ラオスのこども夏募金2019」報告とお礼

2019年7月から9月末まで、ラオスのこども夏募金「ラオス版『おおきなかぶ』をラオスの子どもたちにも!」を実施しました。合計84件、911,113円のご寄付をいただきました。心より御礼申し上げます。

これまで、日本のみなさんの協力でラオス語の翻訳シートを貼り付けた絵本『おおきなかぶ』は、ラオスの子どもたちのもとにたくさん届けられ、子どもたちに大人気です。そこで当会では福音館書店が出版している『おおきなかぶ』のラオス語版を出版することにしました。今回の夏募金で集まった寄付金は、ラオス語版として3,000部出版するうち1,000部を無償配付する費用として使わせていただきます。

ラオス語版制作にあたっては、オリジナルから離れないよう、そして読者であるラオスの子ども達にとって読みやすく親しみが持てるよう書体(フォント)選びをはじめ、検討を重ねて進めています。専門家の協力を得て、ラオス事務所準備を進めています。完成予定は3月。子どもたちも完成を楽しみにしていることでしょう。



子どもたちと「おおきなかぶ」を演じる当会スタッフ

## 応援お願いします!

「ラオスのこども」はこれまで323校で学校図書室の開設を行い、現在は学校図書室の新設開設の支援だけでなく、既設の学校図書室のフォローアップも重視しています。

ラオス事務所のスタッフが既設の学校図書室を訪ね、図書室の運営状況の聞き取りや本の状態を確認すると、利用されている図書室もある一方で、あまり活発ではない図書室もあります。

そこで、今回の募金ではフォローアップの一つとして、ヴィエンチャン県内の既設の10校の図書室の再活性化と充実を目指して、1校あたり200冊の追加の図書を配付することを決定しました。目標額は2020年2月末までに100万円! 2019年12月末までに合計657,486円のご寄付をいただきました。心から感謝申し上げます。引き続き目標達成までご協力をお願いいたします。

## NPO法人の認定の更新が決定しました!

認定NPO法人制度は、NPO法人への寄付を促すことにより、活動を支援するために税制上設けられた措置です。

「ラオスのこども」は、2010年に認定を受けて以来、2度目の更新申請となります。1年以上前から準備を進め、2019年6月に更新申請書を東京都へ提出、11月に実地調査を受け、2020年1月29日に決定通知を受け取りました。認定の有効期間は5年間です。

認定を受けたことで、「ラオスのこども」に対するご寄付は、確定申告により税金の控除を受けることができます。マンスリーサポーターや募金キャンペーンへの寄付金も対象となります。また、相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限内に寄付をされた場合、その寄付金には相続税が課税されません。ご関心をお持ちの方は、東京事務所までお問い合わせください。

## 「ラオスのこども」の仲間たち

### ヴィエンチャンの子どもたちとの4か月

加藤萌音さん/インターン

私が国際協力に関心を持つようになったのは、大学で所属していた学生団体での経験からでした。ラオスの農村の小学校でフィールドワークをしているうちに「支援をするとは何なのか」という漠然とした疑問を持つようになったのがきっかけです。



お昼休みに図書館に来た子どもたち。

その後、お世話になっていた「ラオスのこども」でインターンをする機会をいただき、2019年9月上旬から12月末までラオス事務所でインターンをしていました。ここではインターン中に会った子どもたちについてお話ししようと思います。

平日の事務所併設図書館には約20～30人の子どもが来館し、カードゲームやお絵描きなど自由に過ごしています。

その中でもクンナンという女子生徒は日本にとっても関心があり、来るたびにアニメで覚えた日本語をよく言っていました。私も彼女に何かできることはないかと思い、ひらがなだけの簡単な絵本を使って日本語を教えたり、その代わりにラオス語を教えてもらったりと、互いに教え合いっこをして交流を深めていきました。彼女とは今でも連絡を取り合っており、今後もいい関係を続けていきたいと思っています。

彼女の他にも、英語が得意のアリナーという子や、毎回遊びに誘ってくれるミナという女の子、問題児と言われがちだがとても寂しがりなのではと思っているメーなど、カラフルな個性を持つ子どもたちばかりでした。

#### 表紙の写真

ラオス事務所インターン加藤さん企画のワークショップ”Going to the book's world”のようす。この日のALC図書館は海の中。絵本『スイミー』のキャラクターを紙人形で作り、スタッフが読み聞かせをするなか、子どもたちはスイミーのお話の世界に入り込んでいきます。色とりどりのお手製の紙人形を動かすときのみんなの嬉しそうな笑顔が印象的でした。

#### 特定非営利活動法人ラオスのこども

組織の理念「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくります。

#### ラオスのこども通信 76号

2020年2月発行 編集人:森透  
発行:Action with Lao Children / DeknoyLao  
(認定) 特定非営利活動法人 ラオスのこども  
〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303  
TEL/FAX 03-3755-1603  
e-mail: alctk@deknoylao.net  
http://deknoylao.net  
都営地下鉄浅草線 西馬込 南口下車 徒歩7分  
郵便振替 00140-6-462494

初めは子どもたちにとって何か刺激のある経験になればと思っていましたが、今思えば私の方がたくさん刺激と子どもたちの優しさをもらっていたのだと思います。

事務所では調査の同行やワークショップなど経験したことがたくさんありましたが、毎日の中で子どもたちとふれ合う時間は「何のために支援するのか」という根本的な問いにとっても大きな影響を与えていました。そして昼休みに「モネいるのー？」という何気ない彼らの言葉はとても大きな支えでもありました。

たった4か月されど4か月。私は、子どもが成長していく過程に少しでも関わったこと、そして彼らが私のインターンでの経験に関わってくれたことにとっても感謝しています。

こうした思いと経験を大切に今後活動をしていきたいと思っています。

## メコンのほどり智

### なるほど～な生活の知恵

熱帯モンスーン気候のラオスには、いたるところに虫がいます。なかでも身近な虫の筆頭が、蟻(アリ)。昨年は雨季の終わりの9～10月にかけて、蟻が大発生していました。

彼らは少しでも食べ物の痕跡があると寄ってきます。ちょっと目を離れたスキに、テーブルに置いたパンや、飲みかけのジュースが、蟻の大群で真っ黒になっていて、悲鳴をあげたこともしばしば(それもだんだん慣れてきてしまうのですが・・・)。屋内だろうが、2階だろうが、袋に入っていようが、おかまいなしです。

そんな悩ましい蟻に対抗すべくラオス人があみ出した仕掛けはコチラ(右上写真)。水を張ったタライの中央にコップなどを立てて、その上に受け皿を置き、この中に食べ物を入れておけば、水



ラオス事務所のキッチンにて。置いているのは、スタッフのお昼ごはん-カオニャオ(もち米)が入ったカゴと、ソムムー(豚肉をバナナの葉で包んで発酵させたもの)

に阻まれて蟻が近づけない仕組みです。

今まで、あらゆる食べ物を冷蔵庫に避難させていましたが、スタッフがこうやっているのを見て、私も真似するように。常温で置いておきたい食材にはもってこいの方法です。暮らしてみても知るラオス版「おばあちゃんの知恵袋」でした。(渡邊淳子)